

カウンターのイス

2023. 2. 22

米沢のラーメン屋さんによく行っている。その店は行列のできる店である。テーブル席が3つあるが、あとはカウンター席が並ぶ。

コロナ禍になる前から、この店のお客さんは会話が少ない。だまって席に座り、だまってラーメンが運ばれてくるのを待ち、だまって食べる。食べ終わったら、さっさと店を後にする。したがって回転がいい。行列ができるため、互いに気を使って早く帰るといった側面もあるが、それだけではない。店員さんの愛想がさほどよくはないということもあるかもしれない。

以前から、この店だけではないのだが、カウンター席の丸いイスに背もたれがなく、中途半端に高くて座りにくく、落ち着かないと思っていた。

牛丼店の話である。牛丼店は客単価が安く、その分、多くのお客さんに来てもらいたいと思っている。ぱっと食べて、ぱっと帰ってもらおう。そして、次のお客さんに来てもらおう。お店としては、お客さんに長居されたくはない。

そこで、お客さんがくつろげないように、様々な工夫をしている。お客さんにくつろいでもらう工夫ではなく、くつろげない工夫である。カウンター席になっていて、丸椅子で、背もたれのない少し高めの椅子である。高めの椅子だと、人は落ち着かないそうである。

あのラーメン屋さんも牛丼店と同じか。そう思った。この店の特徴として、カウンター席の注文が一度に入る。そして、厨房には20以上の丼が並ぶ。なぜそうなるのか。カウンター席のお客さんたちが同じタイミングで帰っていくからである。正確には、そうせざるを得ない状況に追い込まれるのである。

カウンター席には奥からお客さんが座る。もちろんラーメンが運ばれてくるのも奥の席からである。食べるスピードはまちまちのはずなのだが、食べ終わるのも奥の席からとなる。自然とそうなる。少しでも食べるのが遅いと、順番を狂わせてしまう。妙な緊張感が漂う。短時間でカウンター席は総入れ替えとなる。見ていると、見事である。

家族で行くと、テーブル席になる。ここは、カウンター席のような流れに乗らなくてもいい。緊張感なく食べることができる。それでも、食べ終われば、次のお客さんのために、さっさと帰る。なぜかそういう雰囲気がある。

たまに、常連さんではないお客さんがテーブル席で食べ終わっても話しており、なかなか帰らないことがある。すると、店員さんからご指導が入る。「次のお客さんが待っているので」すかさず退散である。こういうときは、普段から愛想がよくない店員さんのほうがよい。

カウンターのイスに、さっさと帰ってほしいという願いが込められているとは恐れ入った。道理で居心地がよくないわけである。これからも、あのお店では、店の術中にはまりながら、美味しいラーメンを頬張ることだろう。席はやっぱりカウンターである。